

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 12-008

PDCA	事務事業名	半田赤レンガ建物管理運営事業	部課等名	市民経済部 観光課 観光担当	担当	伊藤		
					内線等	324		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第1節 観光・産業の振興 基本施策： 1. 観光 単位施策： (1) 観光資源の活用 個別施策： ①観光資源の充実						
	根拠法令等	—						
	対象・目的	半田赤レンガ建物は、本市の観光拠点施設として民間事業者のノウハウを活用した指定管理者制度による管理運営を行う。多くの観光客を誘客し、半田赤レンガ建物の歴史的価値や魅力を市内外に発信する。						
	目的を達成するための手段・活動内容	民間事業者の柔軟な発想とノウハウを活用した指定管理者制度による管理・運営を行う。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
		①常設展示室入館者数	41,992	36,723	12,450	人		
		②観光バス誘客数	455	366	88	台		
		③クラブハウス等利用数	873	1,185	612	回		
		事業費	62,642	63,381	63,800	千円		
		人件費	3,748	4,347	6,172	千円		
		総事業費	66,390	67,728	69,972	千円		
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
	①来場者1人あたりに係るコスト	128	142	569	円			
	②							
	③							
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
		①半田赤レンガ建物来場者数	実績値	519	477	123	千人	
			目標値	500	500	520		
②		実績値						
		目標値						
③		実績値						
	目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性			
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない		
	事業の評価・課題	D 新型コロナウイルス感染拡大の影響により4、5月と閉館していたことに加え、赤レンガマルシェやカプトビールフェスタ、ドイツフェスティバルなどの集客力のある大型イベントが実施できず、成果指標である年間来場者数は大きく減少した。一方で、アテンダントデスクを設置し、常設展示室への誘導、館内・市内の情報発信基地として来館者の多様なニーズに対応するとともに、カフェメニューのリニューアルや半田赤レンガ建物オリジナル商品を開発するなど、おもてなしの強化を図った。						
		改善推進						
		イベントの実施については、新型コロナウイルス感染拡大の状況により大きく影響を受けやすいため、イベント以外の日常的な集客を延ばすため、集客力のある展示会の誘致など、貸館の営業に力を入れていく。また、カフェについては、客層や好みに沿ったメニューの開発や好評である赤レンガBBQの期間を広げ、市民の憩いの場としての利用の促進を図っていく。						
		今後の事業の方向性						
A 課題解決のための目標	令和3年度の目標	成果指標			目標値	単位		
		①半田赤レンガ建物来場者数(新型コロナウイルスの影響がない場合)			520	千人		